

IV-18

都市部の賑わい感演出のための彫刻（芸術）からのまちづくり

岩手大学 学生員 ○中川 雅晴
 岩手大学 正 員 安藤 昭
 岩手大学 正 員 赤谷 隆一

1. はじめに

1961年の「宇部を彫刻で飾る事業」を発端とし、全国各地で「彫刻のあるまちづくり」に関連した事業が展開されてきた。パブリックアートは市民の文化と精神に影響を与えると同時に、空間の価値を高める性質をもつものである。人々は街の中で芸術に触れ合うことにより文化と精神を高揚させ、彫刻は周囲環境と調和し、より良い景観や魅力のある空間を創出する。さらに、彫刻の設置が周辺環境に与える影響は、“点”から“面”へと波及効果を生み、広いスケールで展開することにより「彫刻のあるまちづくり」を有意義なものへと変えていく。

平成10年、水沢市はゆとりと潤い・個人と人間性を尊重した、快適で文化性の高い街を築き上げることを目的に、「水沢市彫刻のあるまちづくり実施計画」を水沢市景観形成審議会で決定した。

本研究は「彫刻のあるまちづくり」が行われてきた岩手県水沢市を対象に、彫刻の設置場所の中でも中心市街地の街路に着目し、水沢市のシンボルロードである駅通りと駅通りに設置されている彫刻（黒川晃彦作「愉快な仲間たち」）の整合性について検討した上で、設置場所の修景デザインを提案するものである。

2. 彫刻と街路の類型化

彫刻と街路の関係から整合性について検討するためには、彫刻・街路ともに類型化しておく必要がある。

「彫刻のあるまちづくり」によって彫刻が設置されるということは、当然、彫刻の設置自体に何らかの狙いがあると言える。彫刻の設置により周囲環境を目的とする状態へと変えていくわけであり、ここに設置場所の特性との関係性が出てくる。彫刻の類型化の方法は多様であるが、彫刻と街路の関係を考えた場合に整合性を図る上で重要となるものは、彫刻の設置目的と街路の特性である。

水沢市中心市街地の主要な通りを街路の類型に当てはめたものを表-1に、水沢市を中心とする彫刻を、設置目的による類型に当てはめたものを表-2に示す。

表-1 水沢市中心市街地の主要な街路の分類

類型	中心市街地の主要な街路
大通り	駅通り
繁華街	大町通り、横町通り
表通り	大手通り、袋井通り、中央通り、裁判所通り
裏通り	宮前通り
横丁・路地	名称なし

表-2 設置目的による彫刻の分類

類型	彫刻の題名
記念碑的彫刻	「後藤新平像」、「斉藤實像」、「山崎為得像」、「留守宗利公像」、「正力松太郎像」、「蘇民像」
修景彫刻	「愉快な仲間たち」、「ペガサス像」、「臥したるスター」、「かたらいの像」、「大地の恵像」、「悠遊ペガサス像」、「旅の途中像」、「永久の炎」、「せせらぎの華像」
装飾的彫刻	「はばたき」、「柱の彫刻群」、「雪娘」、「花束」、「飛翔」、「…111, 112, 113…」
実用的彫刻	「ブラックスライドマントラ」、「みみずくのベンチ」、「語らいのためのイスたち」
環境彫刻	「回帰する球体」、「ころんころん」、「森の記念日」、「大地の塔 Land Tower」
場の彫刻	「大地の音」、「火炎土器」、「なかよし像」、「悠久」、「空から風から未来から」

3. 駅通りと彫刻「愉快な仲間たち」についての分析

(1) 水沢市駅通りの特性

駅通りは水沢駅から街中への導入路となるシンボルロードであり、沿道には銀行・ホテル・商店などが集中する中心業務地区となっている。商業近代化事業の導入により、アーケードの新設および歩道の高質舗装が行われた。これに伴う店舗改装もみられ、現代的な商店街が整い始めている。

この通りは駅前通りで来街者向きの街路でもあり、街路の類型でいう、大通りに分類される。

(2) 彫刻の設置場所の現況

現在は商業近代化事業によりドーム型のアーケードが設置され、現代的な商店街となっており、緑が不足している。電柱・標識・サイン・掲示板・自動販売機が設置され、建築物の外壁の色彩感の調和・統一がなされていないため、全体的に雑然とした雰囲気をもつ空間となっている。彫刻の背景にある衣料品店の屋外での商品の陳列も雑然とした雰囲気が感じられる原因の一つとなっている。彫刻設置場所の現況の風景を写真-1に示す。

(3) 彫刻の特性と駅通りとの整合性

「愉快な仲間たち」は観賞するだけでなく、人が関わることによって彫刻が完成されるといった、出会いやふれあいの交流空間を生み出す作品である。設置目的による彫刻の類型に当てはめると修景彫刻に分類され、賑わい感を演出するという観点から十分に効果が期待できる。

駅通りは大通りであるが多少くだけた雰囲気を持つため、「愉快な仲間たち」との整合性が高く、賑わい感を演出する効果が期待できる彫刻を必要としている。

4. 修景グラフィックスの作成

水沢らしさを構成する3大イメージ²⁾「豊かな自然」、「幾度にも重なる歴史の重み」、「都市の多彩な新しさ」、を参考に3つの修景案を立てた。修景写真は現況の写真-1を基本とし、CGにより3案を作成した。

(1) 3案に共通する修景要素

電柱・標識・サイン・掲示板、自動販売機を撤去する。(B案に関しては、掲示板と自動販売機は現状のままとする。)建築物の外壁、舗装、アーケードの柱、看板をはじめとする空間全体の色彩の調和・統一を図る。空間に調和するベンチを設置し、彫刻の奏でる音楽を聴いているかのような雰囲気演出する。ケヤキの植栽や、ファサード・街路へのプランターの設置により、緑を取り入れる。

(2) 修景案

A案「ケヤキの森の息吹を奏でる愉快的仲間たち」

水沢市は農業地帯の中心的商業地域である。その地理的特性から受ける「緑」のイメージを都市の中に取り入れ、植物が人に与える力を重視し、憩いと安らぎを感じられる空間を創造する。修景写真は写真-2に示す。

彫刻の背面にケヤキの植栽を行い、四季折々の変化を美しく演出する。同時に、彫刻の一体感が増す効果を期待できる。建築物の色はケヤキの緑色が映える白色に統一し、壁面と路面の境にも植栽することにより空間と建築物との統一感を持たせ、豊かな緑のイメージをさらに強める。

B案「温かい人々と優雅な時を奏でる愉快的仲間たち」

街行く人を温もりのある様相で迎え入れる雰囲気を創る。「愉快的仲間たち」の周囲にはゆっくりした時間と空気が流れ、人々がその場にとどまりたくなるような、味わい深い空間を創造する。修景写真は写真-3に示す。

彫刻の背面にレンガを積み重ねることにより、道路を挟んだ向かい側の歩道から彫刻を眺めても3体の一体感が得られるようにする。これによって、レンガの裏に掲示板・自動販売機を残しながらも景観を改善する。彫刻の背面の建物の色は薄いベージュ、舗装は薄い赤色のものを用い、空間と建築物との統一感を持たせる。その中で緑が映え、華やかで楽しい空間を演出する。

C案「都市の躍動と未来を奏でる愉快的仲間たち」

都市の多彩な新しさ・躍動が感じられる、さわやかで近代的な商店街をイメージさせるものにする。「愉快的仲間たち」は賑やかで魅力にあふれる空間を創造する。修景写真は写真-4に示す。

彫刻の背面にステンレス柱を立てることにより、道路を挟んだ向かい側の歩道から彫刻を眺めても3体の一体感が得られるようにする。空間は全体的に青色で統一し、さわやかさを演出する。ファサード・街路にプランターを設置し、緑が都市的な空間全体を引き立てる。

5. まとめ

公共空間における彫刻の設置に当たっては、パブリックアートにおける「パブリックスペース」と「アート」の適切な関係について、住民を含めた十分な議論の上で実施することが重要である。市民の文化と精神の高揚が「彫刻のあるまちづくり」の目的の一つである限り、市民の声を集約し、フィードバックしていくことが不可欠である。今回は3つの修景案からCGによる修景写真を作成したが、水沢市民を対象に修景案および修景写真についてのアンケート調査を行い、評価をしてもらう必要がある。

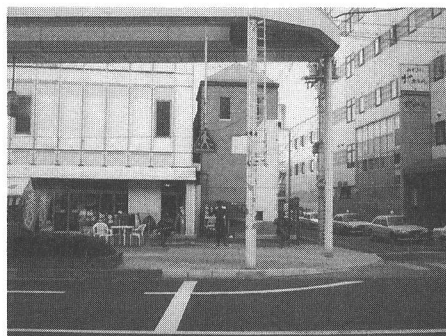


写真-1 彫刻の設置場所の現況



写真-2 ケヤキの森の息吹を奏でる愉快的仲間たち



写真-3 温かい人々と優雅な時を奏でる愉快的仲間たち



写真-4 都市の躍動と未来を奏でる愉快的仲間たち

【参考文献】

- 1) 土木学会 (1985) : 街路の景観設計 土木学会編、技報堂出版
- 2) 水沢市 (1997) : 水沢市彫刻のあるまちづくり基本計画 (案) 報告書
- 3) 小林重順 (1994) : 景観の色とイメージ